

M44-7復刻モデル、JICO「J44A 7 IMP NUDE」で試す KS-Remastaのシェルリード線で どんなサウンドを得られるかを探る

Text by
炭山アキラ
Akira Samiyama
Main Photo by 田代法生



使用カートリッジJICO「J44A 7 IMP NUDE」+テクニクス製ヘッドシェル。交換針は「N44-7」(無垢丸針、針圧1.5~3.0g)

KS-Remasta

①KS-VWS-3024D

¥4,400(税込)

色濃くエネルギー

●導体:1940~60年代ウエスタンエレクトリック社製awg24(直径約0.5mm)単線●絶縁体:ブラックエナメル、絹巻き(在庫状況により外装は随時変わります。また製作時、剥離剤の浸透によりシミの出る事があります)●ハンダ:1940~50年代タッチボーイ社製

②KS-LW8100STD

¥6,600(税込)

繊細微妙な表現力、高品位な再生音

●導体:海外製8N-OFCクワイオ処理断面積約0.36mm²、透明被覆●ハンダ:KS-RemastaオリジナルSTDグレード

③KS-LW-1800STD

¥6,600(税込)

ストレートで力強く、躍動感あふれるサウンド

●導体:海外製高純度OFC直径0.6mm単線、緑被覆●ハンダ:KS-RemastaオリジナルSTDグレード

④KS-LW-1500STD

¥6,600(税込)

明るくピントの合った現代的なサウンド

●導体:PC-TripleC直径0.6mm単線、青被覆●ハンダ:KS-RemastaオリジナルSTDグレード

<4モデル共通>

●全長:約43mm●シェルチップ:金メッキリン青銅、カートリッジ側1.2mm、シェル側1.0mm、テーパ加工(※シェル側1.2mmも同一価格で承ります)

※①③④は、DL-102用Y字モノラル仕様も同一価格で承ります

それぞれが持ち味を發揮し
魅力の表現を引き出した

これまでKSリマスタ製シェルリードの試聴をする際には、MCカートリッジを使うことが多かったが、今回はJICOが復刻したM44に無垢針を取り

付けた個体で、比較的人手しやすいランクの製品を試そう。

まず、今回テストに使ったシエルに純正装着のリードを聴いた。ごく標準的なものである。厚みはM44ならではだが、何だかナローで雑な音という感じ、音源の艶が消えてしまう。

①KS・VWS・3024Dを聴こう。WEのヴィンテージ細巻き単線を用いた製品である。クラシックは高域方向へ若干ナローだが、元の艶と音場の深みが再現されるようになった。ジャズは盤本来の佇まいを一気に取り戻す。若干賑やかな印象もあるが、それもM44の持ち味のうちか。ポップスはパワーと切れ味が早い。声もよく張り出し、楽しめるサウンド傾向だ。

次に②KS・LW・8100STD。導体はクワイオ処理済み8N銅の撚り線だ。クラシックは奥行方向へ広大な音場と、遠近感のはっきりした音像が好ましい。磨き立てられたような美音系である。ジャズも音像がツヤツヤと輝く。VWSの洪みとは対照的で、好みははっきりと分かれよう。ポップスはハイファイだがやや品の良い感じ

だ。汗の飛び散る熱演ならVWSだが、この表現も悪くない。

次は③KS・LW・1800STD、太いOFC単線による、これも定番品である。クラシックは生命力にあふれ、音がガンガン飛びながら品位を失わない。奥行き感8100に譲る。ジャズはまるで演奏者が今こ

で吹いているような生々しさと勢いに痺れる。ポップスはパワフルだが雑味少なく、シャウトは鋭いが耳に障らない。M44ってこんなに器が大きかったつけ、と思わず独りごちた。

最後に聴いた④KS・LW・1500STDは、導体をPC・TripleC単線にした1800の兄弟モデル。クラシックは音場が涼やかによく伸び、弦はみずみずしく、全体にピシリとピントの合ったハイファイ調だ。ジャズはやや高域へ向けて音の厚みが増す印象だが、潤いたっぷりで何とも魅力的な再現を聴ける。ポップスはパワフルかつ綺麗な音で、どこことなく乙に澄ましたようなところを感じられるのが面白い。1種類のリードで全ジャンルの音楽を聴くことを考えるのなら、この製品が結構有望なのではないか。